

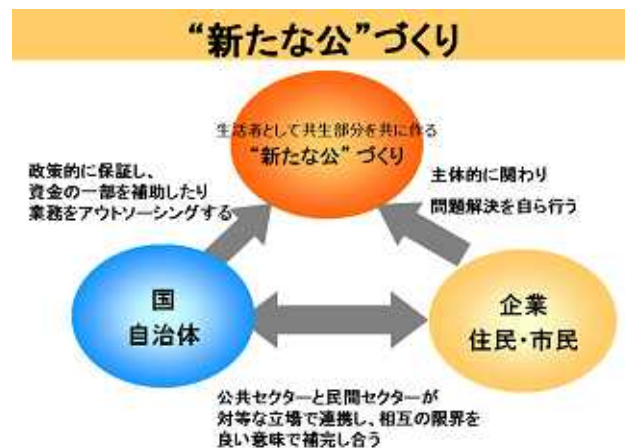
「団塊世代の地域参画によるコミュニティの活性化～新たな公づくりに向けて～」

コミュニティビジネス総合研究所 所長 細内信孝

はじめに

(1) 団塊世代の地域参画とCB

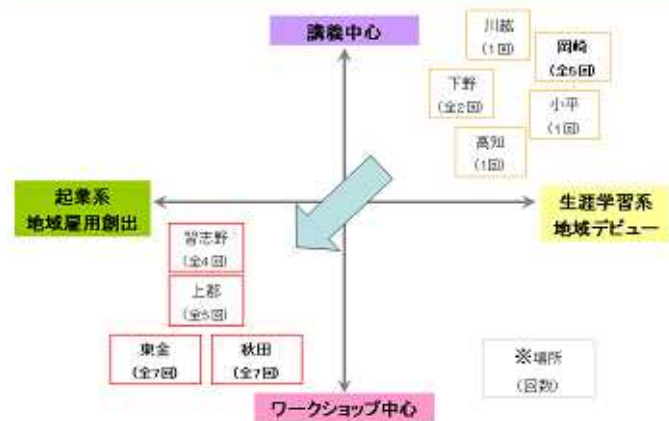
団塊世代の地域への「参画」が叫ばれてから、その実績が顕著に表れているところは思ったほど多くはない。大企業においては定年延長が起因しているかもしれないし、ご本人もここで一休みと思っている。しかし昨今の米国発の世界経済不況はそんな余裕さえも与えないほど、わが国の産業経済を大きく揺るがしている。2008年の米国リーマンショック以前は、都市自治体側も団塊世代への地域参画への呼び水として、地域活動やボランティア活動を盛んに奨励してきたが、ここへきて大きく様変わりしつつある。それは地域活動から一歩進めて、地域の問題を住民・市民自らがビジネスの視点で取り組み、地域の雇用を生み出す、コミュニティ・ビジネス（地域密着型ビジネス。以下、「CB」という。）へのシフトを図ろうとする都市自治体が増加している。そのアプローチとして、主に団塊世代を対象にしてCBの講演会や起業講座（ワークショップ）を開催し、地域の問題解決を図る手段として、地域密着型ビジネスの事業企画書づくりで“公”とともに地域の問題に取り組む担い手育成を目指している都市自治体が増加している（これを筆者は“新たな公づくり”という。）。



(2) CBレクチャーへのニーズ分析

次のCBレクチャー分布図は2008年度に当社（コミュニティビジネス総合研究所）が受託したコミュニティ・ビジネスによる起業講座ならびに講演会先である。いずれも3回とか5回、7回、8回と回数が複数の講座になることが多い。その起業講座には次の2つのパターンがある。それは、「起業系 雇用創出型」と「生涯学習系 地域デビュー型」である。都市自治体でも、どこの部署が主催するかによってその対象者が異なる。近年の傾向として、団塊世代の退職に合わせて「生涯学習系 地域デビュー型」が増える傾向にあった。その際の主催部署は、生涯学習課、市民協働課、コミュニティセンター、教育委員会、公民館、社会福祉協議会などであった。

コミュニティ・ビジネス レクチャー分布図【2008年度】



しかし、前述のとおり 2008 年後半から世界経済の悪化もあり、ここへ来て具体的な地域問題解決型のビジネス企画を行う「起業系 雇用創出型」へのニーズが高まってきている。その主催部署は、経済産業課、地域振興課、経済観光課、企画課などであり、また自治体と共同で商工会議所、商工会などが取り組む例も増えてきている。

東京近郊で、比較的高齢化率の高い神奈川県逗子市においては、早い段階（7年前の2002年）から、「起業系 雇用創出型」で取り組んできた。これも団塊世代の地域参画を意識し前倒しで取り組んできた事例であり、現在も「女と男のセミナー」などと称し、新たな公づくりの担い手育成に取り組んでいる（逗子市の取組みは、細内信孝編著『がんばる地域のコミュニティ・ビジネス』（学陽書房、2008年）に詳しい。）

（3）行政の課題

都市自治体において、こうしたCBの講演会や起業講座（ワークショップ）を開催する意味は、新たな公づくりの担い手育成、団塊世代の教養レクチャーというだけではなく、地域への関心や郷土愛を創出・促進し、新たな出会いや仲間づくりのための居場所づくりという意味合いもある。また地域の問題を議論して、その解決策を記述し、事業企画書としてかたちにするワークショップでは、起業イメージの具現化が期待できる。

こうした起業講座（ワークショップ）は、25名前後（1グループ5名の5グループ編成にする。）の参加者と共同で作業を進めるので初心者にも気軽に参加できるメリットがある。なお次章では、2008年当社が受託したCB起業講座（講演・ワークショップ）の具体的事例を通じて、前述した団塊世代のための2つのパターンのCB講座を紹介する。

団塊世代のためのコミュニティ・ビジネス起業講座

（1）生涯学習 地域デビュー型CB起業講座

<例> 岡崎市（5回連続）、下野市（2回連続）、川越市（1回）、小平市（1回）など

企業戦士の多い都市部など、参加者にはこれまで「地域」へのかかわりが比較的少なかった人が多い都市自治体向けである。まずは、おのれの住む地域をよく知り、地域に慣れることに重きをおく講座である。

- | |
|---|
| 第1回：いまこそ、地域デビューのとき！
～ 団塊世代のための地域デビュー心得～ |
| 第2回：地域へのかかわり方 一人で？ 仲間と？
～ ボランティア、NPO など、かかわり方のかたちを探る～ |
| 第3回：地域再発見！ 芸術文化でまちづくり
～ アート、音楽、スポーツ、歴史、観光・・・まずは自分の関心分野から～ |
| 第4回：キャリアを活かして地域に貢献
～ 地域の安心・安全を守る、福祉に携わる・・・地域のニーズに応じてやりがいを実感～ |
| 第5回：第2のキャリアステージは地域にあり
～ まちの仕事おこし コミュニティ・ビジネスの考え方を学ぶ～ |

岡崎市での5回講座のラインナップ

各地における当講座の反応は、会場での参加者とのやり取りやアンケート結果によれば、地域デビューへのヒントが多く得られるものであったという好反応が多数寄せられた。さらに、今後は、地域活動から一歩進めて、何らかの収入が得られるコミュニティ・ビジネス起業への関心も多く寄せられた。各都市とも団塊世代の人たちは、その多くが企業戦士であり、今まで会社と自宅の往復しか時間がとれず、自分の住んでいる地域にまったく関心がなかったことを吐露している。これから何とか地域に溶け込んで行きたいと願って、この講座に参加したと述べている（団塊世代の地域デビューへの取組みは、細内信孝編著『団塊世代の地域デビュー心得帳』（ぎょうせい、2007年）に詳しい。）

（2）起業系 雇用創出型CB起業講座

<例>秋田市（7回連続）、東金市（7回連続）、上郡町（5回連続）、習志野市（4回連続）など世界的な経済不況もあり、今後はこちらの「起業系 雇用創出型」CB起業講座が増えていくものと予想される。ある程度地域へのなじみが出来、起業意欲の強い地域向けの講座である。

- | |
|---------------------------------------|
| 第1回：コミュニティ・ビジネス（CB）とは何か |
| 第2回：団塊世代の地域デビュー、想いを形にしよう |
| 第3回：CB起業のシナリオづくり |
| 第4回：グループで事業企画書を作ろう |
| 第5回：グループによるCB事業企画書の発表会 |
| 第6回：CBフォローアップセミナー
個人によるCB事業企画書の作成 |
| 第7回：CBフォローアップセミナー
個人によるCB事業企画書の発表会 |

秋田市での7回講座のラインナップ

この講座の特徴は、地域に密着した起業のためのシナリオづくり、事業の収入・支出の概算、店

舗・事務所の設計など、起業実現へ向けた具体的なプラン作成で、最初は5名程度のグループで企画書を作成し、発表会を行う。さらには個人レベルへと発展し、一人ひとりで事業企画書を作成し、発表を行う。参加者との議論を通じて事業の強みや弱みを把握する。当起業講座の反応は、開業実績（例えば秋田市のコミュニティレストラン「華正」、東金市のエコロジー会社「豊饒」、自然ファーム「ふれあい夢・未来農園」など、秋田・東金だけでも6件の起業）にも表れており、着実に起業実績は上がっている。こうした団塊世代によるC B 起業は、コミュニティを活性化し、地域力を高めていく。

結び

世界経済の悪化により、わが国の都市自治体においても、C B 型の地域雇用創出が急がれている。雇用対策については、昨今盛んに行われている臨時雇用（魚そのものを与える）にとどまらず、これからはC B 型の自らが地域で雇用を創出する（魚の釣り方を教える）仕組みを整備することも必要である。今回取り上げたC B 起業のための講演会や具体的な事業企画書づくりは、人生経験も豊富で職業スキルも高い団塊世代の人々には打って付けの準備ステージである。都市自治体は、これに“(地域に根ざした)仕事の仕方”を伝授する就業トレーニングセンターなどをコミュニティの現場で整備し、地域に戻りつつある団塊世代を中心にして、地域密着の仕事起こしに長期的な視点で取り組むことが期待されている。

参考引用文献

1. 細内信孝編著『団塊世代の地域デビュー心得帳』ぎょうせい 2007年
2. 細内信孝編著『がんばる地域のコミュニティ・ビジネス』学陽書房 2008年
3. 細内信孝のコミュニティ・ビジネス ワールド <http://www.hosouchi.com>